



# 2021年3月期 第2四半期 決算短信補足資料

2020年11月5日  
**日本水産株式会社**

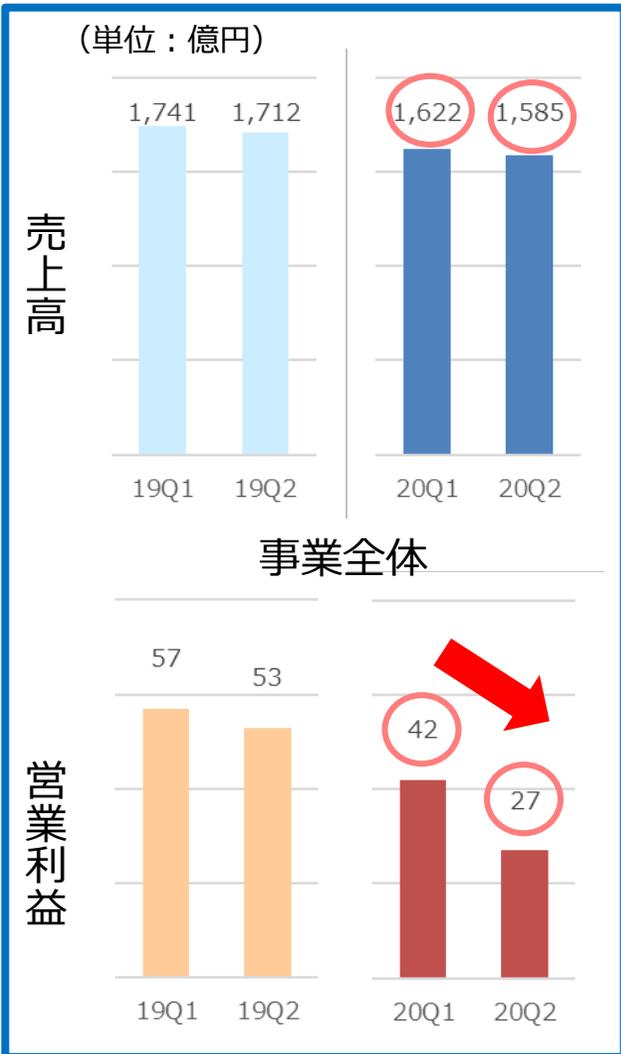
前年比では外食・観光需要の大幅減、需要減による魚価低迷に加え、CVS向け販売減が響き減収・減益。  
 新型コロナウイルスの影響が上期で収まるとしていた計画に対しては、コストダウン効果もあり経常利益は概ね想定通り。純利益は台風による災害損失等の特別損失が響いた。中間配当は計画通り4円。

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比		2021年3月期 期初計画	進捗率 (%)
			増減	増減率(%)		
売上高	3,454 億円	<b>3,208</b> 億円	▲245 億円	▲7.1	6,700 億円	47.9
営業利益	110 億円	<b>69</b> 億円	▲41 億円	▲37.1	190 億円	36.7
経常利益	121 億円	<b>89</b> 億円	▲31 億円	▲26.2	215 億円	41.7
四半期 純利益	78 億円	<b>50</b> 億円	▲27 億円	▲35.7	150 億円	33.6

外出自粛により家庭用食品は堅調に推移したものの、外食・観光需要の減少により7%の減収。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>3,454</b>	<b>3,208</b>	<b>▲245</b>	<b>▲7.1</b>
水産事業	1,413	1,266	▲147	▲10.4
食品事業	1,728	1,646	▲82	▲4.8
ファインケミカル事業	137	122	▲14	▲10.8
物流事業	83	84	0	0.4
その他	90	88	▲1	▲1.8
<b>営業利益</b>	<b>110</b>	<b>69</b>	<b>▲41</b>	<b>▲37.1</b>
水産事業	54	18	▲35	▲66.4
食品事業	68	65	▲3	▲5.3
ファインケミカル事業	11	9	▲2	▲17.7
物流事業	8	9	1	19.5
その他	0	3	2	271.5
全社経費	▲32	▲36	▲3	11.2
<b>経常利益</b>	<b>121</b>	<b>89</b>	<b>▲31</b>	<b>▲26.2</b>
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>78</b>	<b>50</b>	<b>▲27</b>	<b>▲35.7</b>

国内は水産品の販売価格低迷、養殖まぐろの台風被害が響き減益。  
海外は新型コロナウイルスの影響を受け外食向けが苦戦。

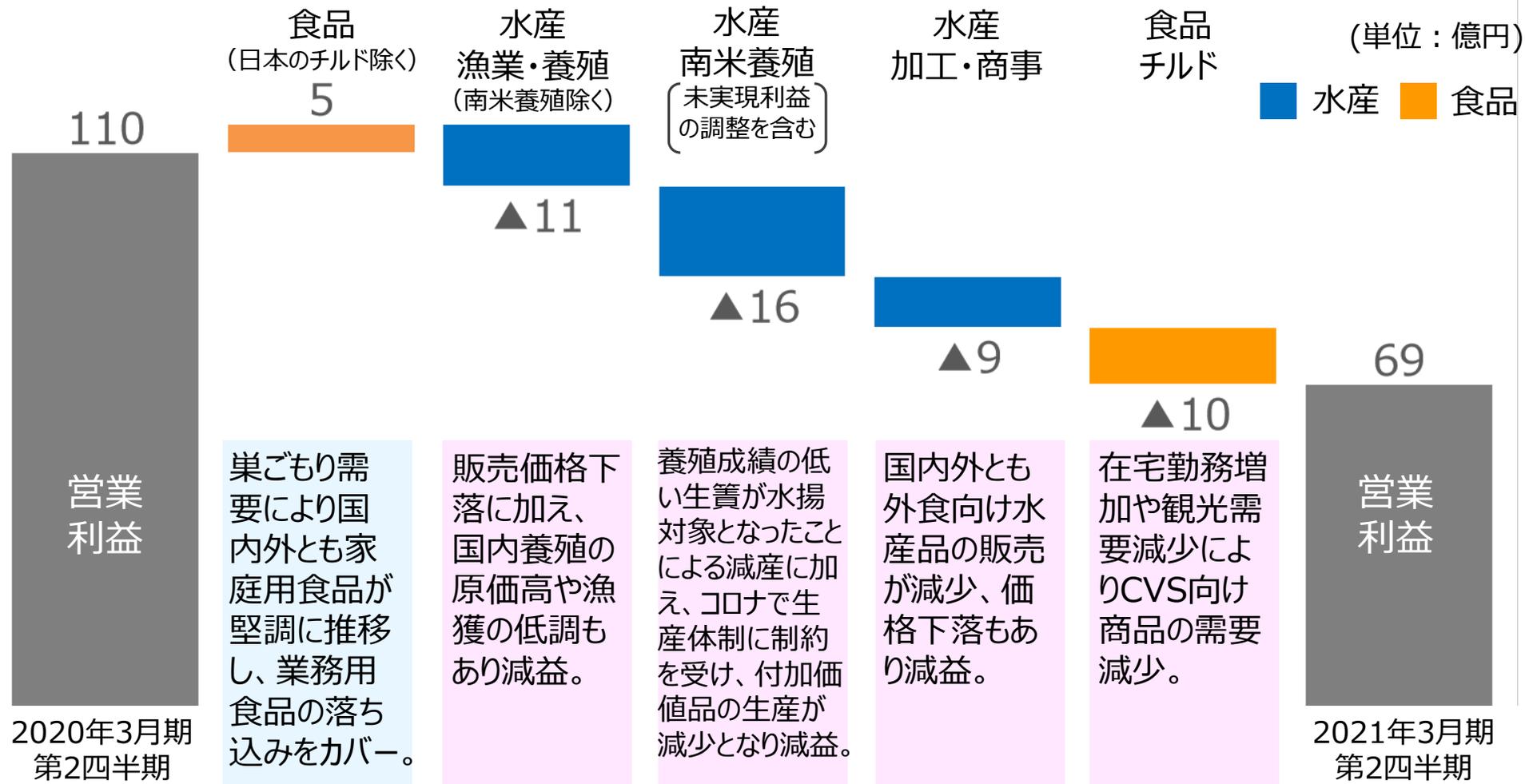


第2四半期の状況	
国内 (7-9月) 共通	外食向けの販売は徐々に回復傾向も前年並みには戻らず。魚価低迷が継続。
食品	家庭用食品は引き続き堅調に推移。業務用食品・コンビニエンスストア向け商品は徐々に回復傾向も前年並みには戻らず。
水産	養殖まぐろが台風被害で原価高となり減益。漁獲も低調。
海外 (4-6月) 共通	新型コロナウイルスの感染拡大による外出規制の影響を大きく受けた。
食品 北米・欧州	家庭用食品は堅調に推移。業務用食品は外食向けの販売が減少。
水産 南米	販売価格下落。鮭鱒養殖は減産に加え、付加価値品の構成比率の低下で減益。漁獲も低調。
水産 北米・欧州	外食向けの販売落ち込みに加え、高収益のクルーズ船向け販売の減少で収益性低下。

# 主な営業利益増減要因(前年同期比)



国内外とも家庭用食品の販売は堅調で業務用食品の落ち込みをカバーもチルド事業は苦戦。水産は魚価低迷に加え、南米鮭鱒養殖事業の減産、国内養殖事業の原価高もあり減益。



## 現預金を取り崩し借入金を削減

( ) 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<b>流動資産</b>		<b>2,405</b>	<b>(▲125)</b>	<b>流動負債</b>		<b>1,607</b>	<b>(▲361)</b>
現金及び預金		135	(▲137)	支払手形及び買掛金		384	(+29)
受取手形及び売掛金		801	(+2)	短期借入金		844	(▲364)
棚卸資産(在庫)		1,309	(▲0)	未払費用		218	(▲14)
<b>固定資産</b>		<b>2,411</b>	<b>(+27)</b>	<b>固定負債</b>		<b>1,433</b>	<b>(+210)</b>
有形固定資産		1,480	(+0)	長期借入金		1,207	(+203)
無形固定資産		98	(▲4)	<b>純資産</b>		<b>1,775</b>	<b>(+52)</b>
投資その他の資産		832	(+31)	自己資本		1,587	(+55)
<b>総資産</b>		<b>4,817</b>	<b>(▲98)</b>	自己資本比率		'20/3 31.2% ⇒ '20/9 <b>33.0%</b>	

## フリーキャッシュフローが大きく改善

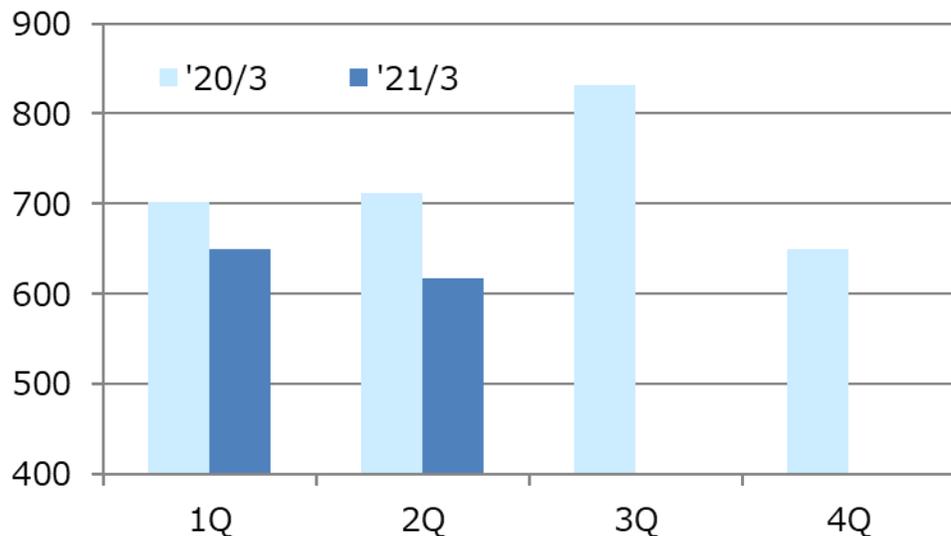
(単位:億円)	2020年3月期 第2四半期実績	2021年3月期 第2四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	119	80	▲ 38
・減価償却費 (のれん償却含む)	93	97	3
・運転資本	▲ 199	▲ 7	192
・法人税等の支払額	▲ 31	▲ 13	17
・その他	▲ 48	▲ 9	39
<b>営業活動によるCF</b>	<b>▲ 67</b>	<b>146</b>	<b>213</b>
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 137	▲ 143	▲ 5
・その他	0	46	45
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 136</b>	<b>▲ 96</b>	<b>39</b>
・短期借入金の増減額	296	▲ 278	▲ 575
・長期借入金の増減額	▲ 66	124	190
・その他	▲ 22	▲ 22	0
<b>財務活動によるCF</b>	<b>207</b>	<b>▲ 176</b>	<b>▲ 384</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>165</b>	<b>188</b>	

鮭鱒・ぶりなど多くの魚種の販売価格下落に加え、南米鮭鱒養殖事業の減産、国内養殖での原価高、漁獲の低調もあり減収減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	<b>1,413</b>	<b>1,266</b>	<b>▲147</b>	<b>▲10.4</b>
営業利益	<b>54</b>	<b>18</b>	<b>▲35</b>	<b>▲66.4</b>

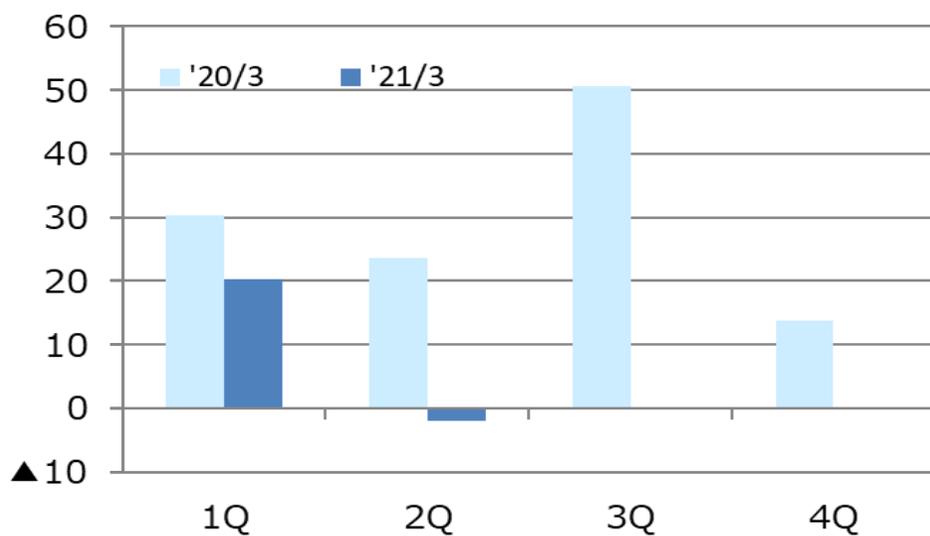
### 売上高 (四半期別)

(単位：億円)

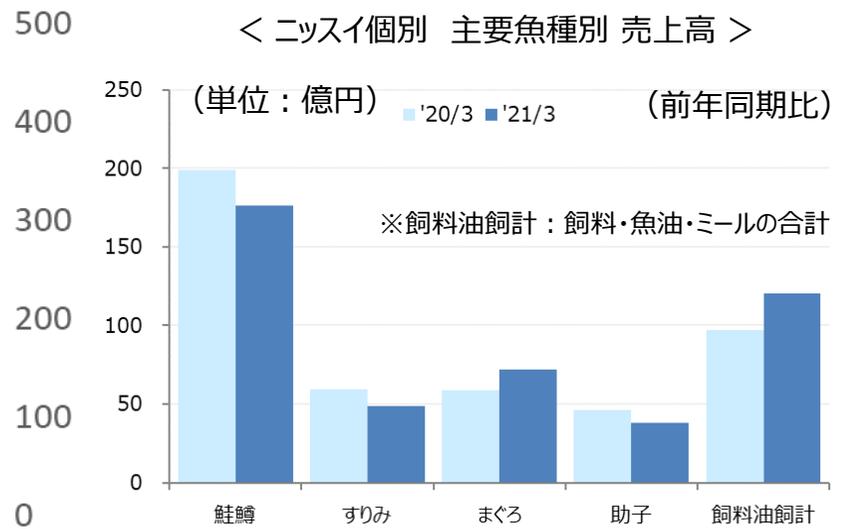
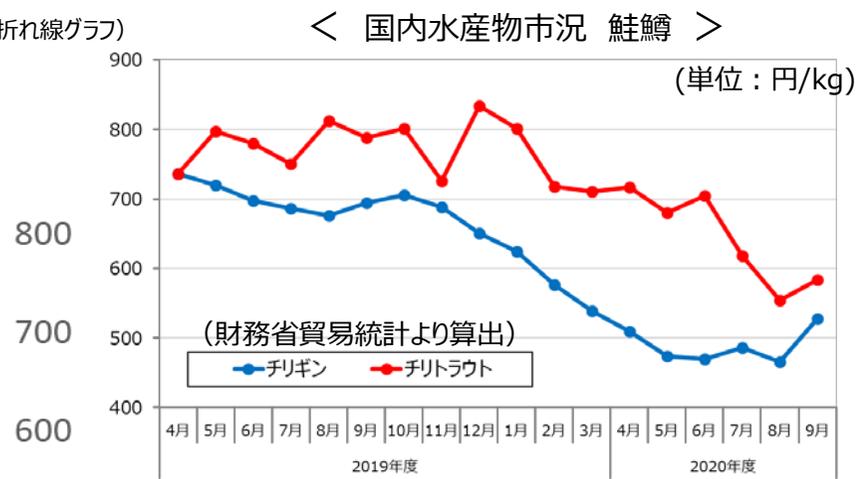
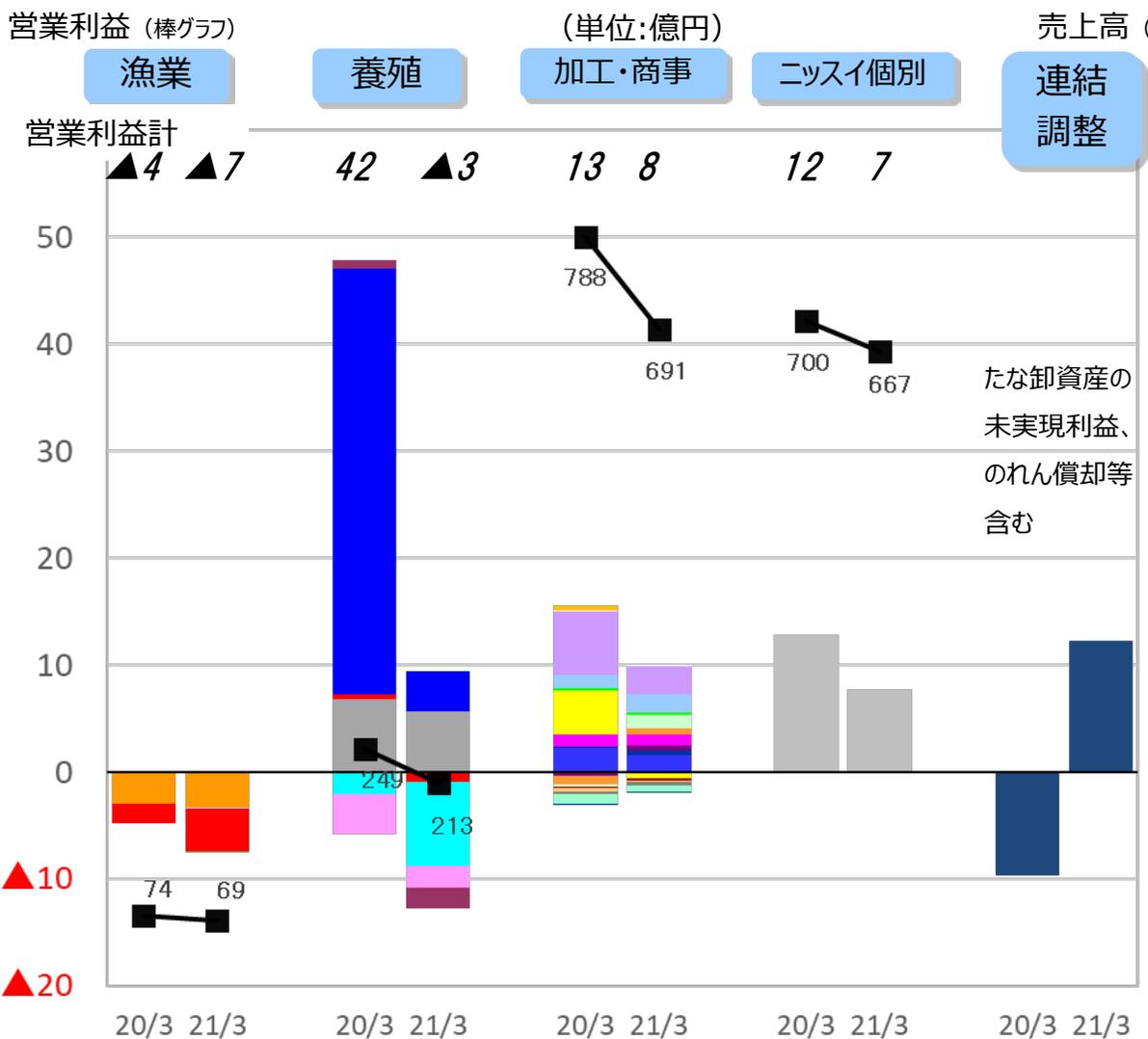


### 営業利益 (四半期別)

(単位：億円)

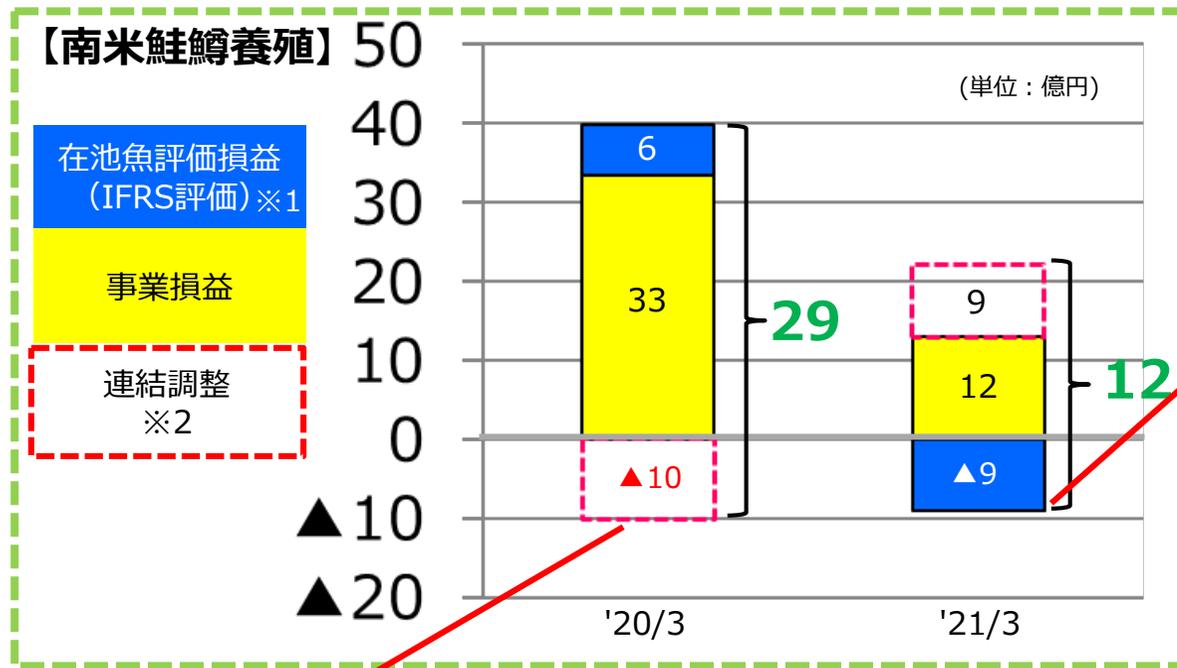


漁業・養殖は漁獲低調に加え販売価格低迷・原価高、水産品の販売も外食向け需要減が響き苦戦。



養殖成績の低い生簀が水揚対象となったことによる減産に加え、コロナで生産体制が密にならないよう指導があり、付加価値品の生産が減少し減益。未実現利益の調整を含めた前年比は16億円の減益。

在池魚評価損益と未実現利益の調整は在庫数量と利益率の影響を受ける。前期の調整額の戻しと当期末の調整額の差額が当期損益に影響する。



※1 在池魚評価損益  
国際財務報告基準(IFRS)に基づき、海面養殖魚(在池魚)について出荷想定価格による評価を実施

前期末より評価対象が2kg以上からすべて(ノルウェー方式)に統一された。

【評価対象】  
(従来) 2kg以上の海面養殖魚  
(変更後) すべての海面養殖魚

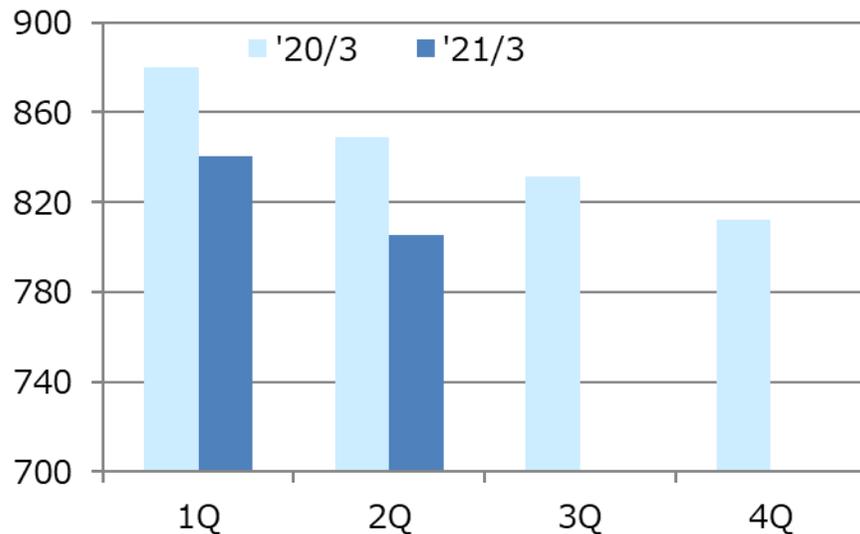
※2 在庫に含まれる未実現利益の調整  
在庫に含まれている内部利益を消去する決算調整

家庭用食品が堅調に推移し、業務用食品の落ち込みをカバーしたが、  
 チルド事業のCVS向け商品の販売減が響き大きく減収。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	<b>1,728</b>	<b>1,646</b>	<b>▲82</b>	<b>▲4.8</b>
営業利益	<b>68</b>	<b>65</b>	<b>▲3</b>	<b>▲5.3</b>

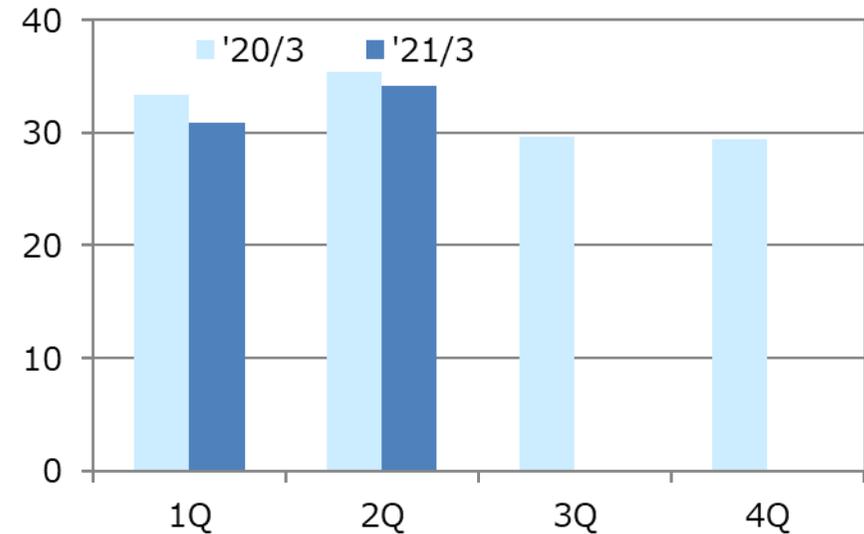
売上高 (四半期別)

(単位：億円)

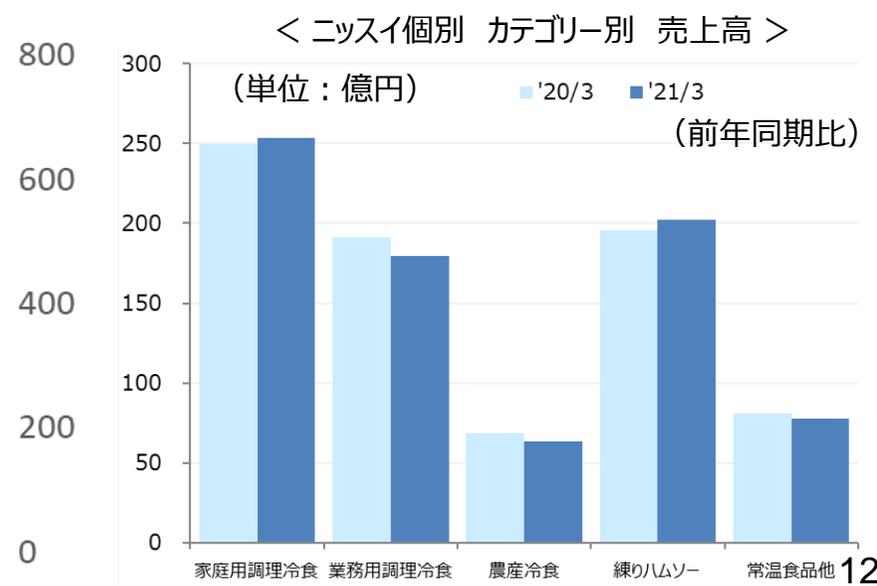
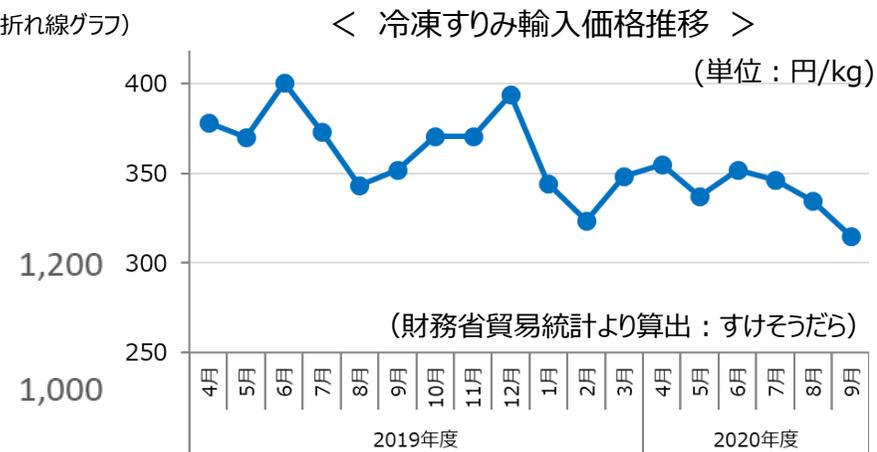
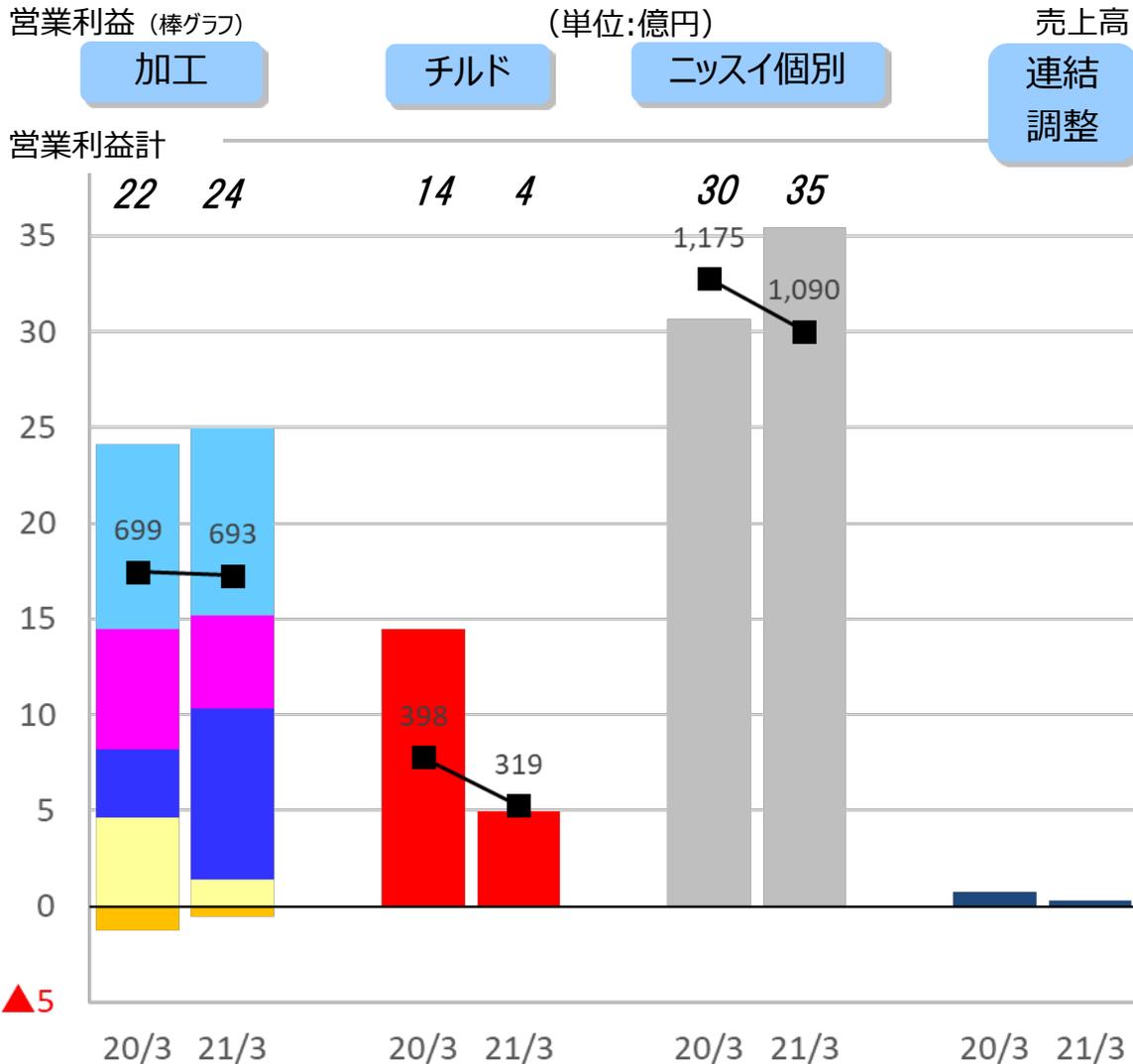


営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



特に量販店向けの海外食品が好調。チルド事業はコストダウンに取り組みも数量減が響き大幅減益。

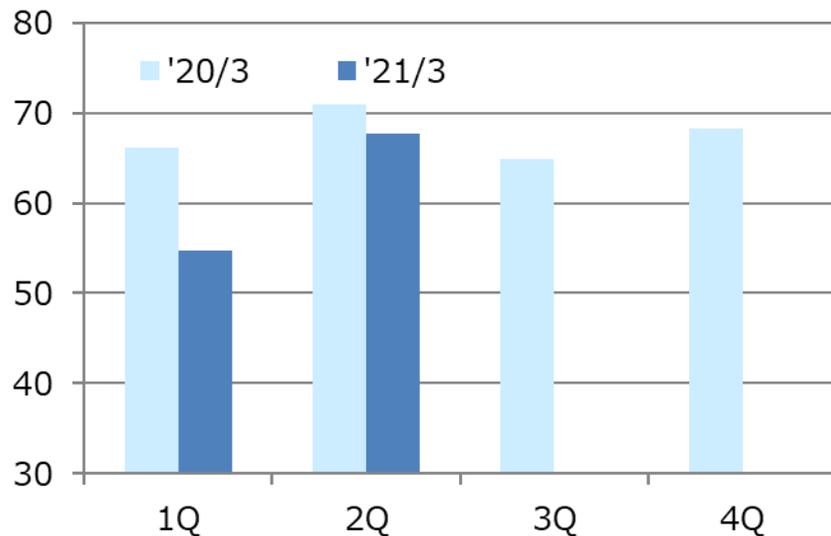


機能性食品の販売は堅調に推移したが、医薬原料の販売は減少。  
子会社の医薬事業売却（4月）もあり減収減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	<b>137</b>	<b>122</b>	<b>▲14</b>	<b>▲10.8</b>
営業利益	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>▲2</b>	<b>▲17.7</b>

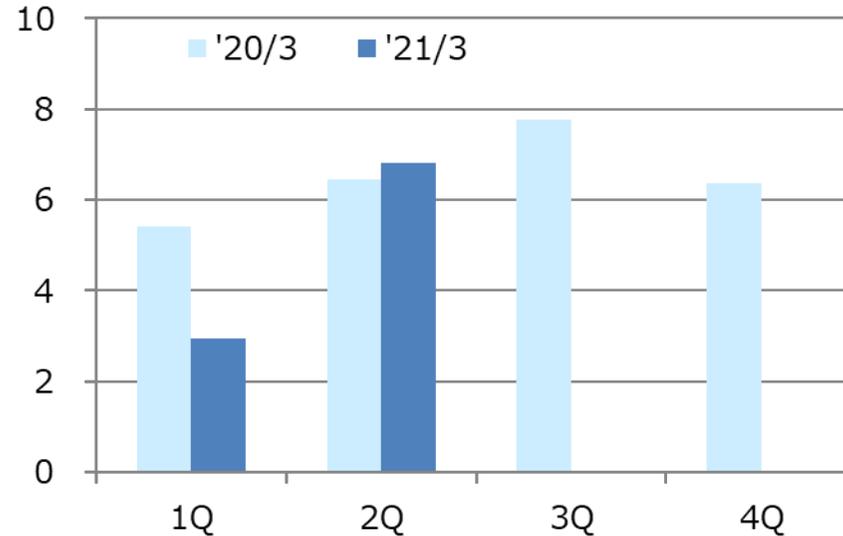
売上高（四半期別）

(単位：億円)



営業利益（四半期別）

(単位：億円)

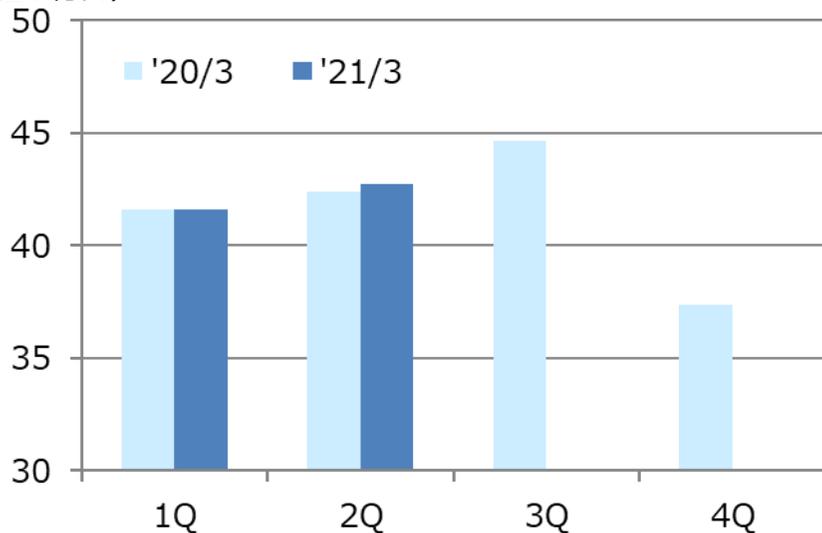


荷動きが鈍化する中、大阪舞洲物流センター2号棟の新規稼働もあり前年並み。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	83	84	0	0.4
営業利益	8	9	1	19.5

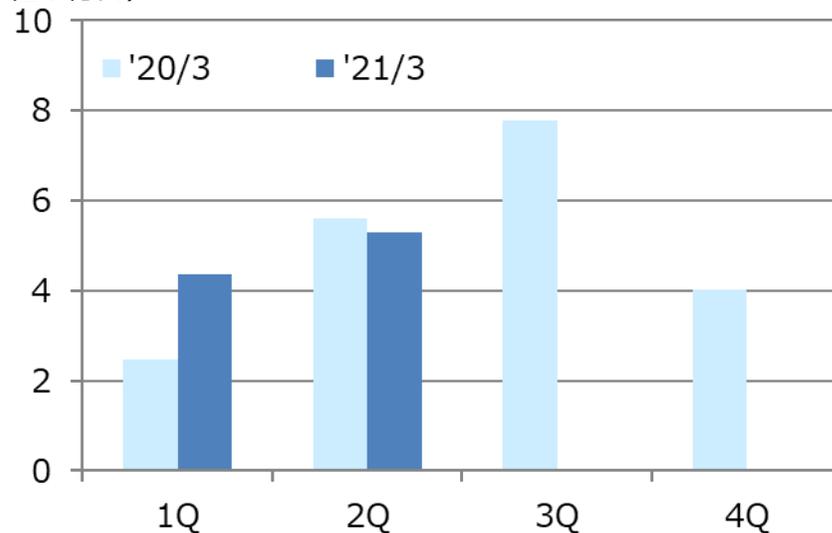
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

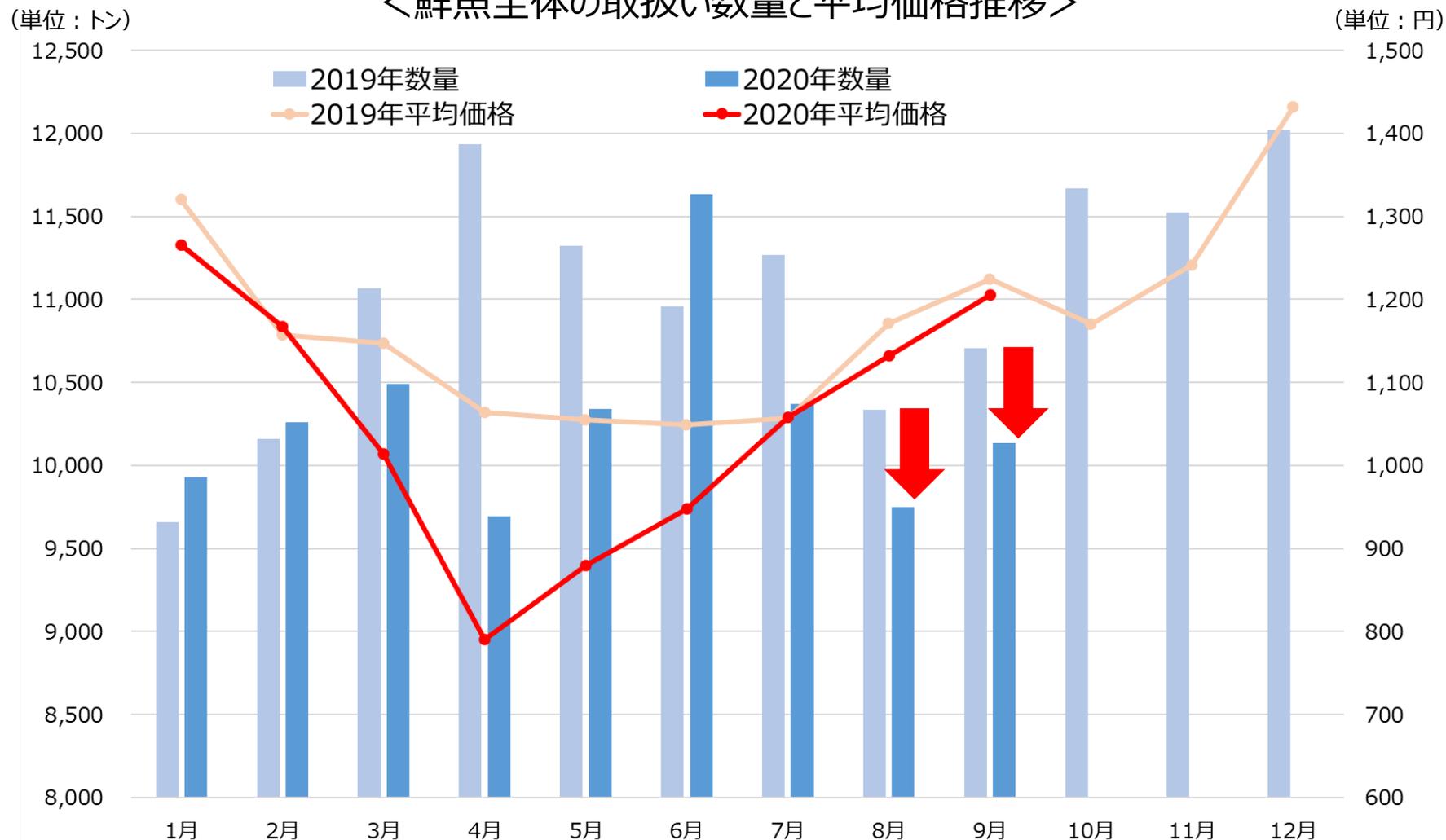
(単位：億円)



# 2021年 3 月期の通期見通し

平均価格は回復傾向も、取扱い数量は前年の水準には戻っていない。

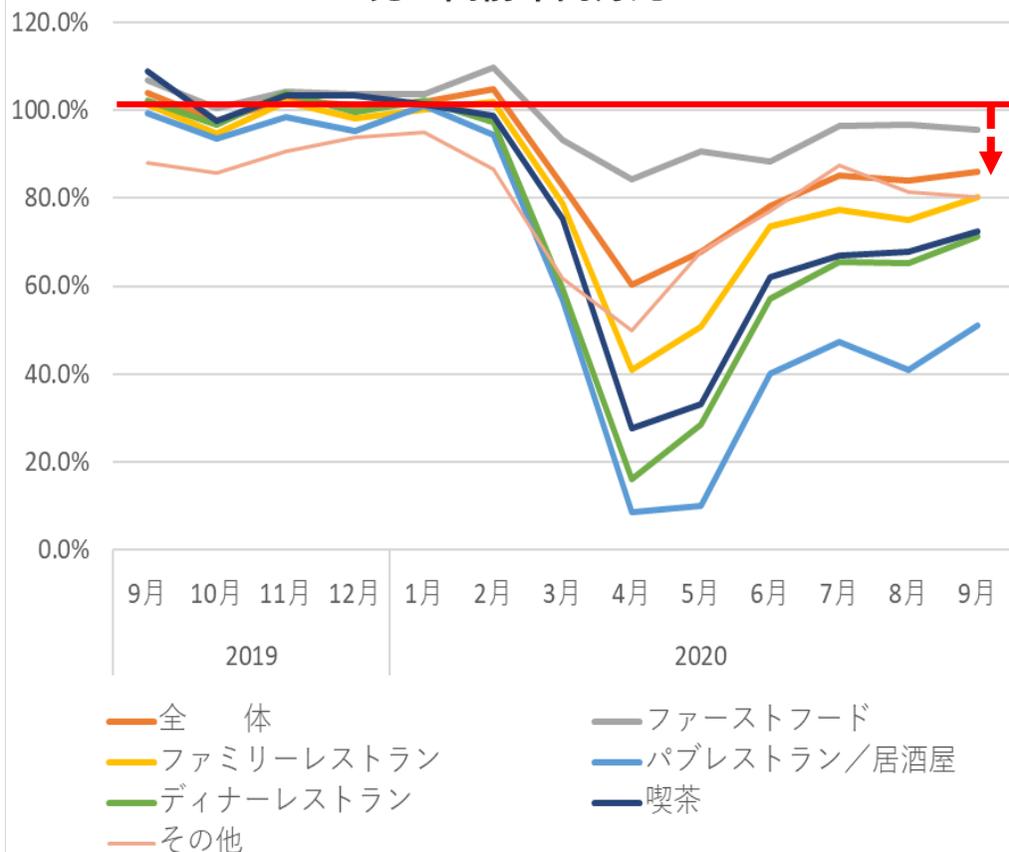
＜鮮魚全体の取扱い数量と平均価格推移＞



外食産業、CVSは3月～5月に大きくマイナス、6月から若干回復も依然として前年割れ。

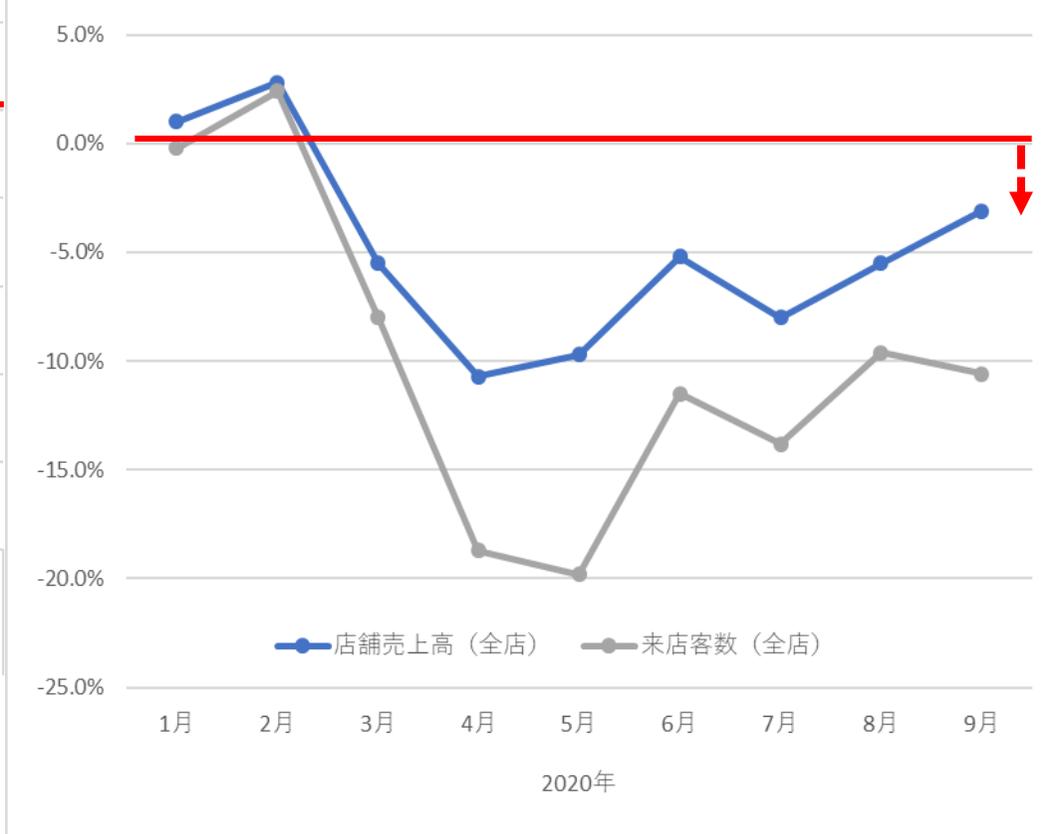
日本 外食産業市場動向調査（2020年9月度）

売上高前年同月比



CVS統計調査（2020年9月度）

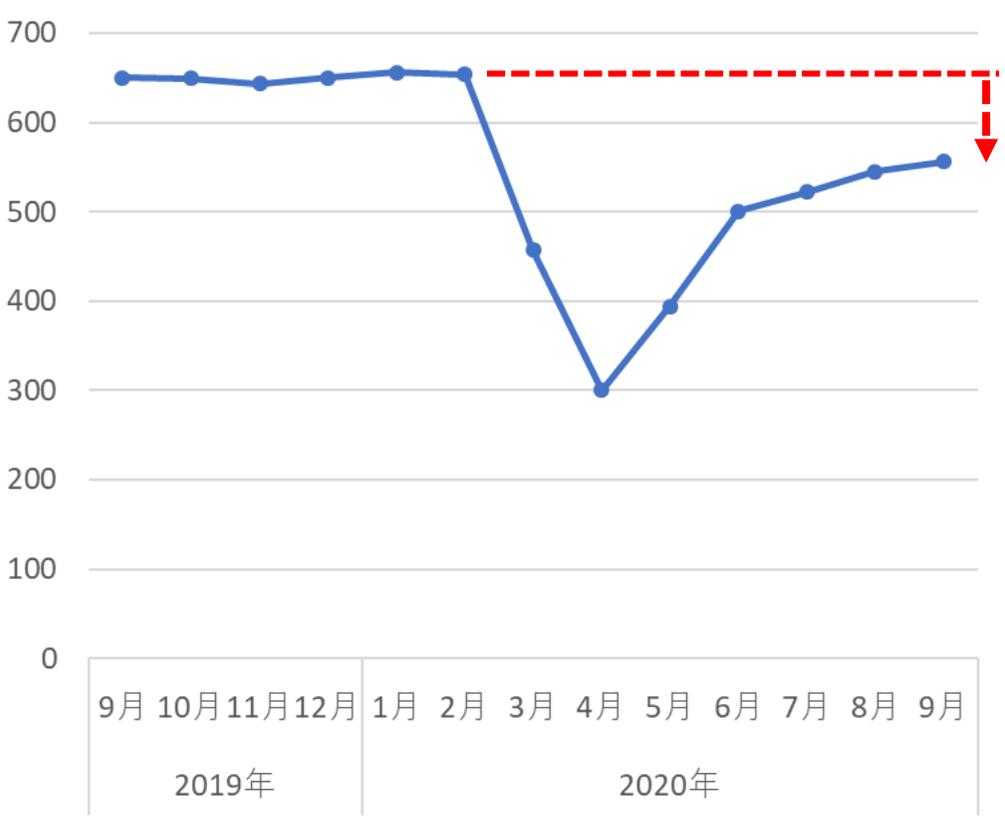
店舗売上高・来店客数 前年同月比



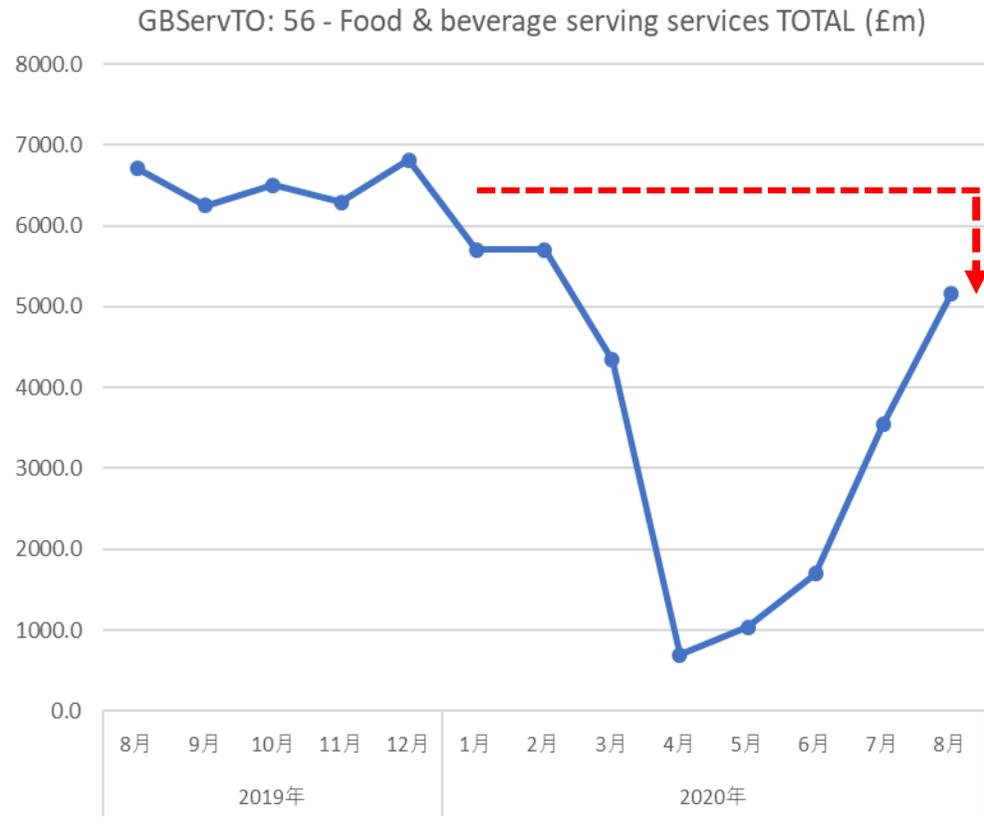
米国・英国も、3月～5月に大きくマイナス、6月から若干回復も前年水準には戻らず。

単位：億ドル

### 米国 外食産業売上高推移



### 英国 外食産業売上高推移



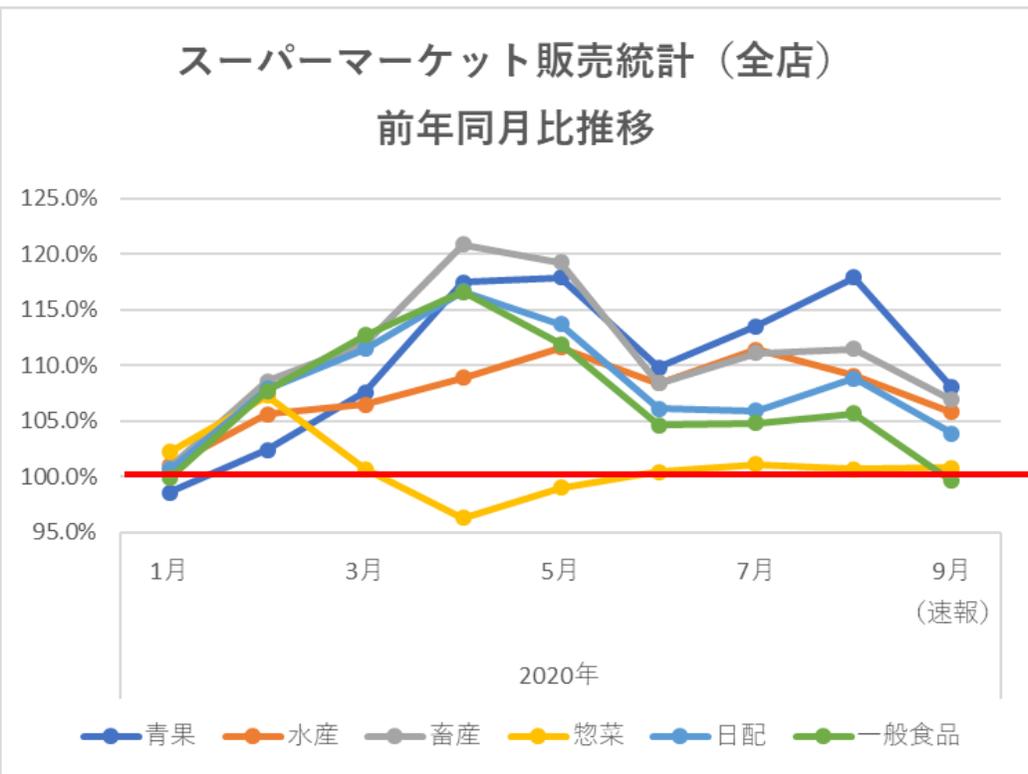
出典：U.S. Census Bureau. National Restaurant Association.

出典：ONS 英国統計局

量販店は巣ごもり需要により堅調。  
家庭用冷凍食品は市場拡大も6月以降は伸びが鈍化。

## ＜スーパーマーケット販売統計＞

## ＜冷凍食品販売金額（宅配・通販除）＞



出典：スーパーマーケット販売統計調査  
（一社 全国スーパーマーケット協会、一社 日本スーパーマーケット協会、  
オール日本スーパーマーケット協会）

出典：インテージ SRI-M

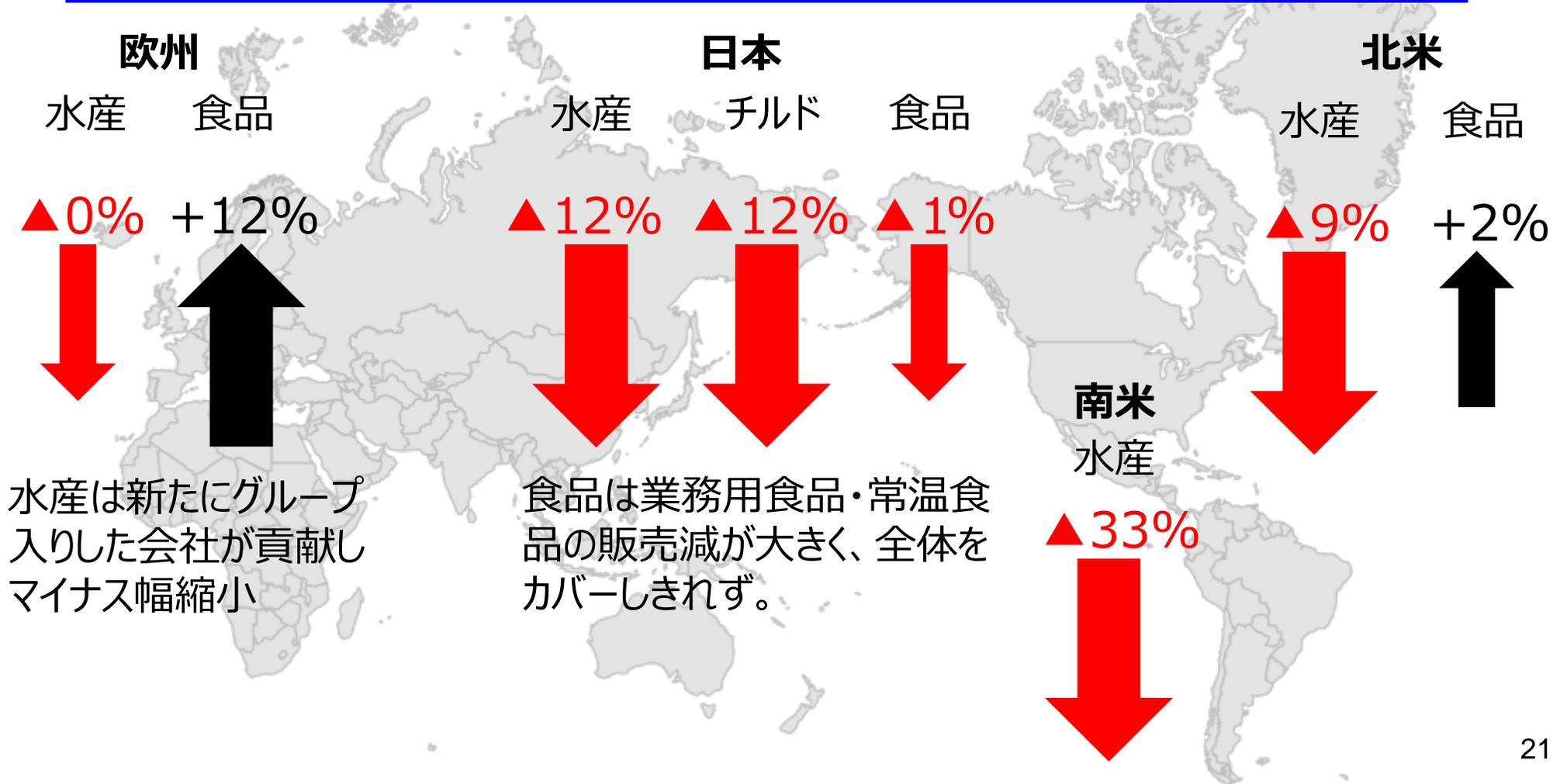
## 10月に入り世界各国で感染再拡大の様相



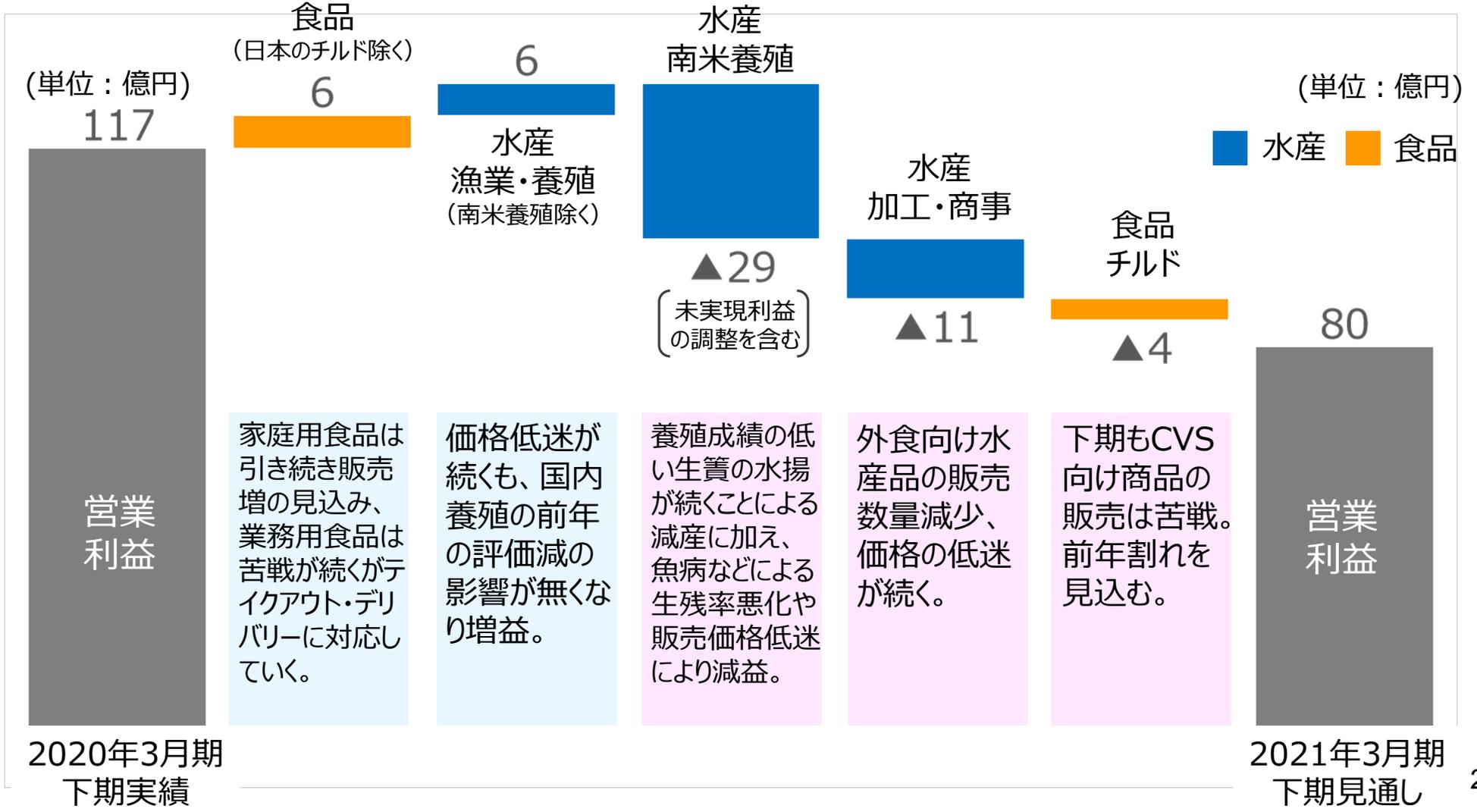
出典：WHO-COVID-19-global-data



上期に引き続き北米と欧州の食品事業は家庭用食品が業務用食品の落ち込みをカバーし増収。水産事業は需要減、販売価格下落が響き減収。日本はCVS向け商品の販売減で減収となる見込み。



家庭用食品は販売増が見込める一方、水産事業は需要減、魚価低迷が継続し苦戦する見通し。



家庭用食品は引き続き販売増の見込み、業務用食品は苦戦が続くがテイクアウト・デリバリーに対応していく。

価格低迷が続くも、国内養殖の前年の評価減の影響が無くなり増益。

養殖成績の低い生簀の水揚げが続くことによる減産に加え、魚病などによる生残率悪化や販売価格低迷により減益。

外食向け水産品の販売数量減少、価格の低迷が続く。

下期もCVS向け商品の販売は苦戦。前年割れを見込む。

# 現状振り返り・下期以降の打ち手(水産)

(現状の課題)

(今後の取組)

## 【漁獲成績の悪化】

- ・国内外とも漁獲が低調

## 【養殖成績の悪化】

### <南米鮭鱒>

- ・販売価格下落、減産
- ・魚病、トド被害発生
- ・付加価値品の生産減

### <国内養殖>

- ・販売価格下落
- ・まぐろは台風被害による斃死があり原魚コスト上昇

## 【主要魚種の相場下落】

(鮭鱒・すりみなど)

- ・操業船改造による操業効率の向上
- ・漁獲枠の確保

- ・付加価値品の生産回復  
密を避けるため加工場・ラインを改造し、フィレ生産能力改善

- ・コスト高になっている  
人工種苗まぐろの早期販売
- ・まぐろ産地加工品比率の向上

- ・キャンペーン実施で水産売場活性化
- ・在庫回転率を上げる

- ・持続可能な水産資源の利用を目指し、漁具を改造し混獲や小型魚の漁獲を防止

- ・養殖成績の改善  
魚病・トド被害対策強化

- ・人工種苗まぐろの縮小
- ・蓄養大型まぐろの強化
- ・台風・赤潮・魚病リスク対策強化

- ・食材化、惣菜化商品を強化し収益力向上



殻ごと食べる  
ガーリックシュリンプ



トレーごとレンジで簡単調理

# 現状振り返り・下期以降の打ち手(食品)

(現状の課題)

(今後の取組)



## 【チルド事業】

CVSの来店客数減少の影響を受け苦戦

- ・人員削減、生産体制の見直しによる生産性改善

- ・ニーズ拡大するカテゴリー（チルド弁当、惣菜など）の開発強化、廃棄ロス削減を意識した商品開発

## 【業務用食品】

外食・惣菜売場向け苦戦



惣菜売場向けグラタン「クチーナ・カルダ」シリーズ

(国内)

- ・外食産業や量販店惣菜売場の調理現場での人手不足対応を訴求した商品（自然解凍等）を展開



- ・外食ユーザーへの簡便・省力化対応による差別化
- ・白身魚たんぱくの最大利用

(海外)

- ・テイクアウト・デリバリー向け強化

## 【欧州】

欧州でのチルド商品の拡大

- ・ドイツでの販売をスタート

- ・生産機能の拡張





「毎日食べよう 速筋タンパク」シリーズとして、卵と同等以上の良質なタンパク質であるスケソウダラすりみ100%を使用した商品を展開  
「速筋タンパク」とは、スケソウダラの俊敏な動きの源となる瞬発力を発揮する「速筋」のタンパク質です。  
食べるだけで特別な運動をしなくても除脂肪量(筋肉量の目安となる)が優位に増加することが研究成果として発表されています。



## 湯の丸アスリート食堂

アスリートと共に  
-身体と心を食で支える-



速筋タンパク入り 湯の丸アスリートカレー

とうみ

高地トレーニング施設のある長野県東御市と「食とスポーツに関する連携協力の包括協定」を締結  
速筋タンパクやEPAを摂取できる製品を通じて、アスリートのパフォーマンス向上と市民の健康づくりに貢献



# 現状振り返り・下期以降の打ち手(ファインケミカル)

(現状の課題)

(今後の取組)

## 【医薬品原料の海外展開】

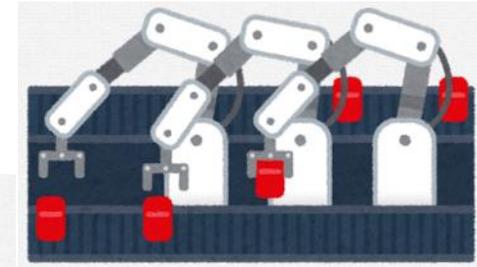
米国FDA(食品医薬品局)による工場査察の遅れ

- ・年度内に米国への出荷開始
- ・今後の需要拡大に向けて、原料調達・製造の両面で機能を強化

- ・医薬品原料の各生産工程での歩留り改善、コストダウン
- ・増産に向けた製造過程の改善作業を継続し、品質向上を図る



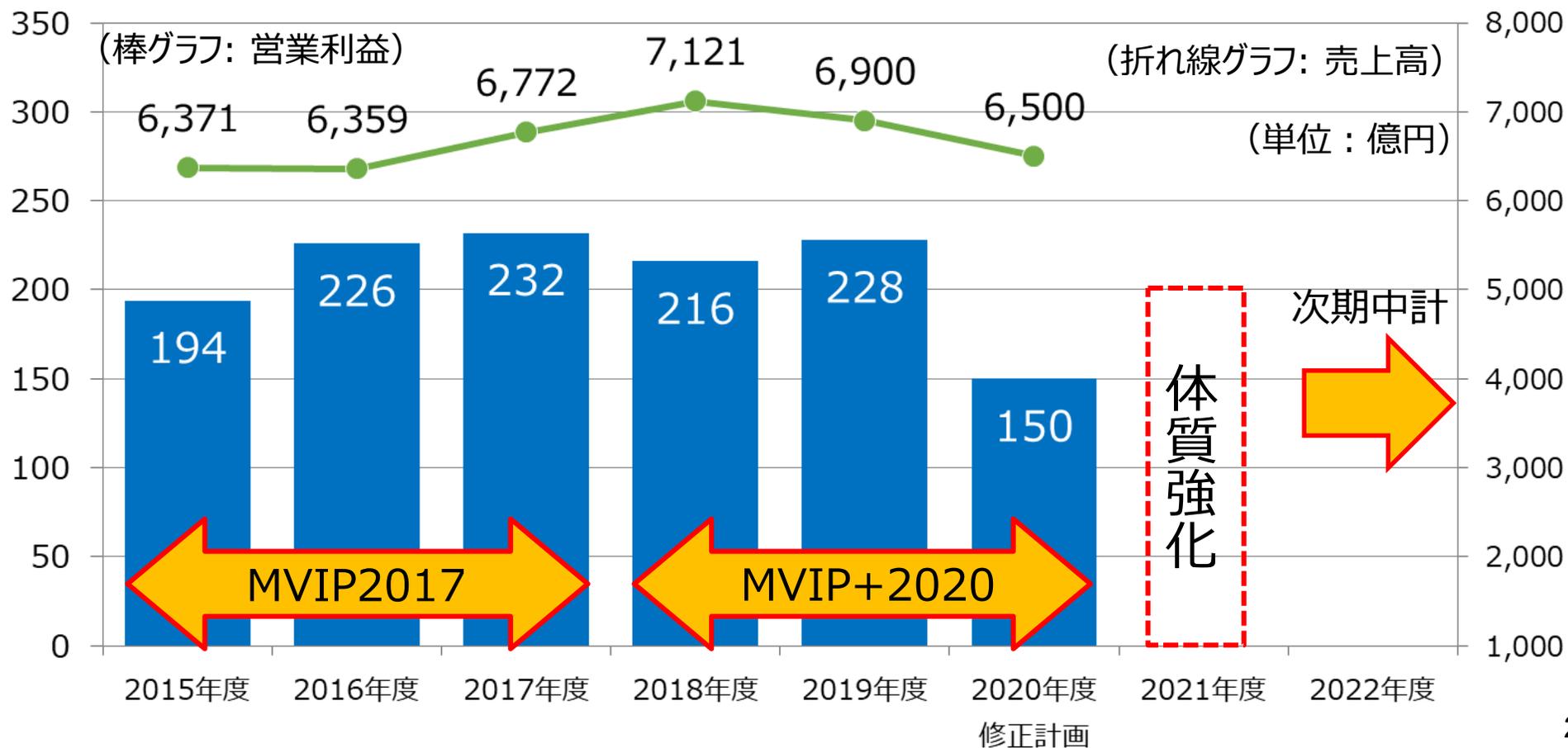
- ・機能性原料のアイテム集約による生産性向上



新型コロナウイルスの影響は上期で収まり、第3四半期より回復する想定だったが、未だ国内外とも感染が収まらず欧州は再び外出規制の動き。今後も外食・観光需要や魚価への影響が続くことが予想されるうえ、医薬品原料販売も米国FDAの来日が遅れており、想定より減少することから年間計画は修正するが、配当予想は変更しない。

	2020年3月期 実績	2021年3月期 修正計画	対前年比		2021年3月期 期初計画	対期初計画	
			増減	増減率(%)		比増減	増減率(%)
売上高	6,900 億円	<b>6,500</b> 億円	▲400 億円	▲5.8	6,700 億円	▲200 億円	▲3.0
営業利益	228 億円	<b>150</b> 億円	▲78 億円	▲34.3	190 億円	▲40 億円	▲21.1
経常利益	258 億円	<b>185</b> 億円	▲73 億円	▲28.3	215 億円	▲30 億円	▲14.0
当期 純利益	147 億円	<b>115</b> 億円	▲32 億円	▲22.1	150 億円	▲35 億円	▲23.3

先行き不透明で回復スピードも一進一退。今後の成長戦略には海外展開が欠かせないが、感染再拡大もあり出入国制限が続く状況。そのため2021年度は体質強化の1年とし次期中計は延期する。



コロナ禍で難しい面もありますが、  
事業の収益力を強化するとともに、  
ESGへの取組みもしっかり進め  
体質強化に努めて参ります。

## 前年同期比で減収、減益。

(単位：億円)	2020年3月期 第2四半期実績	2021年3月期 第2四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	3,454	3,208	▲ 245	
売上総利益	665	608	▲ 56	
販売費・一般管理費	554	539	▲ 15	
営業利益	110	69	▲ 41	
営業外収益	20	27	7	持分法投資利益+6
営業外費用	9	7	▲ 1	
経常利益	121	89	▲ 31	
特別利益	2	6	4	投資有価証券売却益+2
特別損失	4	15	11	災害による損失+7 投資有価証券評価損+4
税金等調整前四半期純利益	119	80	▲ 38	
法人税等	35	27	▲ 8	
法人税等調整額	2	0	▲ 2	
四半期純利益	80	52	▲ 27	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	2	▲ 0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	78	50	▲ 27	

# 【参考】 為替換算による影響額(売上高)、為替レート



## 各通貨とも円高により為替影響はマイナス

主要在外会社の 為替換算レート	2020年3月期 第2四半期		2021年3月期 第2四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	631	694	593	643	▲37	▲51	▲41	▲9
EUR(百万ユーロ)	147	182	153	183	6	0	7	▲7
DKK(百万クローネ)	1,435	238	1,253	200	▲181	▲38	▲30	▲7
その他通貨	—	115	—	88	—	▲26	▲23	▲3
計		1,230		1,115		▲115	▲86	▲28

### 【参考：為替レート】

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	変動率
米ドル (USD)	109.67円	107.38円	▲2.1%
ユーロ (EUR)	122.87円	118.74円	▲3.4%
デンマーククローネ (DKK)	16.46円	15.93円	▲3.2%

※右表の為替レートは  
第2四半期の平均

# 【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,056 (▲78)	231 (▲13)	93 (▲41)	30 (▲5)	229 (▲34)	1,641 (▲173)	▲374 (25)	1,266 (▲147)
	1,135	244	135	35	263	1,814	▲400	1,413
食品事業	1,574 (▲178)	318 (3)		24 (▲10)	198 (▲0)	2,116 (▲185)	▲470 (102)	1,646 (▲82)
	1,753	314		35	199	2,302	▲573	1,728
ファイン事業	135 (▲13)			2 (0)		138 (▲13)	▲16 (▲1)	122 (▲14)
	149			2		151	▲14	137
物流事業	161 (▲1)					161 (▲1)	▲77 (1)	84 (0)
	163					163	▲79	83
その他事業	122 (1)			0 (▲0)		122 (1)	▲34 (▲3)	88 (▲1)
	120			0		120	▲30	90
仮計	3,050 (▲270)	549 (▲9)	93 (▲41)	58 (▲15)	428 (▲34)	4,181 (▲371)		
	3,321	559	135	73	462	4,552		
連結調整	▲768 (90)	▲85 (▲1)	▲73 (21)	▲40 (13)	▲5 (1)		▲972 (125)	
	▲858	▲84	▲94	▲53	▲6		▲1,098	
連結計	2,282 (▲180)	463 (▲11)	20 (▲19)	18 (▲2)	423 (▲32)			3,208 (▲245)
	2,462	475	40	20	455			3,454

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# 【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	▲0 (▲14)	2 (▲4)	▲0 (▲38)	1 (1)	3 (▲1)		5 (▲57)	12 (21)	18 (▲35)	1.4 (▲2.4)
	14	6	37	0	5		63	▲9	54	3.8
食品事業	41 (▲4)	13 (3)		▲1 (▲4)	9 (0)		63 (▲4)	1 (0)	65 (▲3)	4.0 (▲0.0)
	45	9		3	8		67	0	68	4.0
ファイン事業	9 (▲1)			0 (▲0)			9 (▲1)	▲0 (▲0)	9 (▲2)	8.0 (▲0.7)
	11			0			11	0	11	8.7
物流事業	9 (1)						9 (1)	▲0 (▲0)	9 (1)	11.4 (1.8)
	7						7	0	8	9.6
その他事業	3 (2)			0 (0)			3 (2)	▲0 (▲0)	3 (2)	4.0 (3.0)
	0			0			0	0	0	1.1
全社経費						▲36 (▲3)	▲36 (▲3)	0 (0)	▲36 (▲3)	
						▲33	▲33	0	▲32	
仮計	63 (▲16)	16 (▲0)	▲0 (▲38)	0 (▲3)	12 (▲1)	▲36 (▲3)	55 (▲63)			
	79	16	37	4	13	▲33	118			
連結調整	3 (2)	2 (0)	10 (19)	1 (1)	▲3 (▲1)	▲0 (▲0)		14 (22)		
	1	1	▲9	0	▲1	0		▲7		
連結計	67 (▲14)	18 (0)	9 (▲18)	2 (▲2)	9 (▲2)	▲37 (▲3)			69 (▲41)	2.2 (▲1.0)
	81	17	27	4	11	▲33			110	3.2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2020年11月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

